ＳＡＪ加盟団体教育本部長連絡会議　　要点復伝

期日　平成 21 年 10 月 18 日（日）　（教育本部専門委員会議と合同）　　会場　日本青年館

1　2009 年事業の総括〔報告・指針・展望等〕

【教育本部の現状】

現在のスキー界は下方安定期（底）と考えている。

スキー人口・会員・行事参加者全て減少。（受検者 1000 名減・研修会参加者減・指導者登録減）

受検者の減少理由はＳＡＪでもはっきりした理由は分からないでいる。

スキースポーツの価値観の希薄。コスト面＝支出価値。時間的な問題。資格保持者の休眠者多い。

【補助金カット】

活動費の縮減→ＳＡＪ研修会の補助金大幅カット。

内容＝「責任者旅費補助」カット０円！　参加者補助１名／500 円を１名／250 円に減額！

【当年度より】

専門委員・デモで開催する「中央研修会」はシーズン前に開催する。

全日本スキー技術選手権大会の運用改正 ↓

① 大回り系種目はヘルメット着用義務付け。②スキー使用マーキングは１選手 2 台までとする。

2　新教程について（スキー・スノーボード）

【スキー教程】

発刊の背景は、スキーの活性化。質・量の拡大に対応。

教程 P16 と P109 の図のスタート言葉の違いに注目してほしい。

コンセプト＝＜１＞ハンネ・シュナイダー技術に回避

（高速ﾌﾟﾙｰｸﾎﾞｰｹﾞﾝ。ﾌｫｰﾙﾗｲﾝまでは内足を踏むという考え）

＜２＞脊柱動物としての身体運動　（2 本の脚でバランス）

＜３＞カービングスキー板の回転性能　（板の方が回ろうとする性能）

スキー技術はシンプルに。「重力活用！」　推進　＝　縦方向

↑自己流　向心　＝　横方向　この兼ね合い。

自然で楽なスキー　のコンセプト

1　重さで滑る・・・フェイス・コントロール

スキーの面（滑走面）に対して直角に荷重！

（角付けは、スキー板が勝手に行うから）

2　両脚で滑る・・・内足主導・外足主働

3　谷回りで滑る・・ニュートラルポジション　＝　（身体運動上の）

従来のニュートラルとは少し意味が違うよ！

スキー技術の展開

1　乱雑さ（も OK）　～　精錬へ

2　谷回りから谷回りの連続　　ワイド・ナチュラルスタンス

３　自然で楽なパラレルターン　　大回り・小回り

【スノーボード教程】

初の改訂により、より実際に即した、使いやすく・解りやすい内容とした。

３　資格制度（スキー指導者）及び検定制度について

【資格制度】

専門指導員・指導員・準指導員・生涯スキーリーダーの４種類資格の確立。

公認スキー専門指導員とは、アルペンレーシングの指導。または不整地コブ斜面指導等のスペシャリスト指導者を公認する。次年度よりＳＡＪ直轄で検定会を実施する。（指導員取得者。理論２単位・実技４単位を受講し、理論検定はレポート。実技検定は各シチュエーション中で評価）

生涯スキーリーダーは、都道府県連で開催できるが、ニーズが無く本県も含め、全国的にほとんど開催されていない。

【検定制度】

指導員・準指導員検定種目の変更＝Ａ・Ｂ・Ｃ単位共、実技各２種目の計６種目。Ｄ単位は理論。

取得単位は４ケ年有効となった。50歳以上の受検者へは受検講習という特例が設定された。

★50歳以上の受検講習については、西日本ブロックの対応を見たい（島村）★

昨年落ちた指導員受検者は、たとえばＢ単位を落としていたら、本年度から設定されたＢ単位種目を受検することとなる。

クラウンプライズ取得者は、単位免除がある。

プライズテスト受検者は、当初より、SAJ正会員でなくてはならない。暫定会員不可。

バッジテスト２級も講習検定となった。

ジュニアテストを中心に各種目内容や設定年齢等が変更となった。

４　事務手続きについて

SAJへの合格者報告・実施報告は、『２週間以内』に提出を厳守のこと。

　特に公認検定員検定会の報告や年次登録料納入が遅れることが多い。

検定不合格者の単位管理のシステムについては、SAJの指導員受検者単位管理システムを各連盟に差し上げる。

教育部・総務部等の変更点は、今後全てタイムリーにSAJのHPにUPするので常時注視しておいてほしい。

５　都道府県連　質疑

Ｑ　日体協資格との整合性は？

Ａ　SAJ現行改正制度を中心とする。＝SAJ公認資格が主というスタンス。

Ｑ　検定制度改正で、この減少傾向の中、専門指導員や生涯スキーリーダー制度は必要か？

Ａ　専門指導員は、現場（北海道のスクール）より、専門的な指導者にコブ等習いたいとの要請にがあり、協議を重ねて制定したものであるので、次年度からのスタートの状況を見てほしい。

Ｑ　ジュニアテストは、タイム判定こそ子供たちに分かりやすい方法であったのに！

Ａ　ポールセットの手間やバーン状況により大きくタイムをロスするなどの現場からのクレームに対

応して改正した。改正の範ちゅうで現場に即した対応をしていただいて可。

Q　指導員・準指導員実技検定種目が大幅に減少したが、準指導員検定では独自種目を加えての判定をしてもよいか？

A　種目の統一化は全国一律に図りたい。しかし実技種目数が大きく減少しているので、各都道府県連の事情により種目の増など、それぞれが対応していただいて良い。（検定委員長）

★この回答を受け、本県連では、種目を１回滑りではなく、数回滑り、総合判定で、その種目得点を検定員がジャッジする方法を取りたい。数回同一種目を見ることにより、受検者のより正確な力量をジャッジでき、時間的な猶予解消にもなる。受検者も緊張感から多少の解放もあるように思う。理事会・評議員会・教育部総会・理論講習会にて口頭発表予定（島村）★

Q　全日本スノーボード技術選手権の出場枠がオフィシャルブックに記載されていない。

A　各都道府県４名が基本枠。（４つのカテゴリーに１名ずつ。同一カテゴリーの４名でも可。）
全体で 400 名の枠があるので検討し、各ブロック研修会にて決定し通知する。

Q　オフィシャルブックは、ブロック技術員には無料配布があるのか？　あればいつ頃？

A　すぐに各事務局に発送する。

Q　教程Ｐ２４２、Ｐ２５２はおかしいのでは？

A　P58 が正しい。

Q　これだけの大改正。それも資格制度と検定制度の改革。もう秋。開会の挨拶の中で、「北の地方では雪の便りが聞こえるこの頃」と言われていたが、もうシーズンインの状況下で、この制度改革内容を、今のタイミングで公表とは、まったく遅すぎる。
もっと早い時期に伝達してほしかった。対応できない。

A　承認手続きが遅くなり今となった。

以上

ＳＡＪ教育本部　規約等変更箇所（要点のみ記載）

期日　平成 21 年 10 月 18 日（日）　確認版

１　教育本部規程

公認スキー専門指導員（アルペン・レーシング専門・コブ斜面専門他）を制定した。
生涯スキーリーダー（認定）を確立した。
制定理由
スキーヤーの指向が多岐にわたり技術的にも高度化へのニーズへ指導体制を対応させ、高度な技術指向に対応する。
高齢者・子供たちへの指導体制の確立。

２　公認スキー指導者規程

第１条の「任務」の記載を変更した。
資格停止に対する解除の規定を設けた。（公認スキー検定員規程も同様改定）
喪失の条件を加えた。
制定理由
本連盟の指導者制度と日体協指導者制度の分離化。
本連盟の歴史ある指導者制度を強調した。
停止に対して解除が規定されてなかったので整備した。
研修会の参加率を上げるため。
資格喪失条件と会員登録規程との整合性をとるため。

３　公認スキー指導者研修会規程

責任者たる役職を要員不足から規定した。
制定理由
規定されている役職者以外の方を加盟団体より候補者を申請できる。

４　公認スキー指導者検定規程

日体協資格からの分離を図った。
３種類の検定を規定した。
専門指導員検定は講習検定とした。平成２３年シーズンから施行。
養成講習会の有効年度を４年から３年とした。
結果報告は３週間以内から２週間以内とした。
準指導員検定も単位制とした。
準指導員受検資格に認定スキー指導員も加えた。

５　公認スキー指導者検定基準

養成講習会時間を集合講習２８時間、自主学習１２時間とした。
（本県規定の「集合講習６日以上」は変更しません：島村）

指導員検定にて、クラウンプライズ公認者はＢ・Ｃ単位を免除する。
準指導員検定にて、クラウン・テクニカル公認者はＢ・Ｃ単位を免除する。（本県でも適用：島村）
単位取得有効年度が３ケ年から４ケ年に延長された。
特例として受検講習の履歴を必要とする受検者の対象年齢を５０才以上とした。

６　公認スキーバッジテスト規程

プライズテスト受検資格年齢を１６才以上から１５才以上に緩和した。
１級で暫定会員ではプライズテストは受検できない。
事前講習を公認スキー指導者（正・準）は免除される。
事前講習は当該年度のみ有効とした。
級別テスト受検資格年齢を中学生以上から１２才以上に緩和した。
１２才以下でもジュニアテスト１級以上合格者は級別テスト１級の受検が可能となった。
３～５級の小学生以上を６才以上に変更した。
１級受検者は２級取得者から「原則として」を加えた表現とした。
２～５級は実践講習テストとする。（２級が新たに加わった）
ジュニアテストで２級以下を実践講習テストとした。１級は３ジャッジ制とした。
各ジュニア級の受検年齢を設けた。
ジュニア１級受検者は事前講習の修了を課す。

以下、下記の規程等が変更になっています。重要事項としての説明はなし。

７　公認スキーパトロール研修会規程
８　公認スノーボード指導者検定基準（種目の全面改正）
９　スノーボード・バッジテスト基準及び実施要領
10 公認クロスカントリースキー指導者規程
11 公認クロスカントリースキー検定員規程
12 公認クロスカントリースキーバッジテスト
13 認定スキー・スノーボード指導員規程
14 生涯スキーリーダー規程
15 公認・登録料料金一覧表（新資格に対応するもの）

※「受検者のために」は廃刊となり、教程・オフィシャルブックと統合されました。

[参　考]　　詳細は、オフィシャルブック他にて確認してください。

★指・準指導員実技種目

Ａ単位　「ステージＩの過程の運動表現能力」
　○制動技術　　横滑りと停止（左右方向）　　急斜面・整地
　○回転技術　　谷回りの原則的な運動（左右方向）　　中斜面・整地

Ｂ単位　「急斜面における運動表現能力」
　○パラレルターン　　大回り　　急斜面ナチュラルな斜面
　○パラレルターン　　小回り　　急斜面ナチュラルな斜面

Ｃ単位　「総合斜面・不整地における運動表現能力」
　○フリースタイル　　小回り　　中急斜面・不整地
　○フリースタイル　　リズム変化　　総合斜面ナチュラルな斜面

Ｄ単位　「基礎理論」

★バッジテスト実技種目

プライズテスト・級別テストの種目は、オフィシャルブック等で確認してください。
小さく変更となっています。

ジュニアテスト　１級
　○パラレルターン　大回り　　整地・中急斜面
　○パラレルターン　小回り　　整地・中斜面
　○フリー滑走　　中級コース
　３名の検定員の平均値を当該種目の取得ポイントとする。（小数点四捨五入）
１種目１００ポイントで、３種目の評価の合計が２１０ポイント以上をもって合格。

ジュニアテスト　２級
　実践講習テスト　○大回りターン、小回りターンの連続ができる能力（中・中急斜面）
　２種目の合計が１３０ポイント以上で合格。

以上